

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通：緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、ソーシャルワーカーなど						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	以下の3分野の人材を養成する。 ・緩和的放射線治療の対象患者の複雑で多岐に渡る苦痛に対し、多職種の有機的な連携を介して対処できる人材を養成する。（医師、看護師、薬剤師、等） ・人材不足が顕著な密封小線源治療の充実のため、全国の中核的施設で技術指導が継続して可能な指導的人材を養成する。（医師、医学物理士、放射線技師） ・適切な高精度放射線治療の実施に必要な科学的根拠の把握、放射線治療計画、物理検証を担える人材を養成する。（医師、医学物理士、放射線技師）						
修了要件・履修方法	・必須/選択講義（計5単位）、選択実習（16時間）、論文指導（15単位）を履修し修了とする。実習は最低2施設での履修を必須とする。						
履修科目等	<必修講義科目>放射線腫瘍学（1単位）、臨床腫瘍学概論（1単位）、画像病理形態学（0.5単位）、核医学治療（0.5単位） <選択講義科目>医学物理学総論（1単位）、密封小線源治療講義（1単位）、放射線測定学（1単位）、がんのカウンセリング概論（0.5単位）、がん看護学（0.5単位）、医療統計学（0.5単位）、臨床腫瘍学特論（0.5単位）、がんの疼痛ケア（0.5単位）、臨床心理学（0.5単位）、陽子線治療（0.5単位）、等 <選択実習科目>密封小線源治療実習・ハンズオン（8時間/施設）、高精度放射線治療実習（8時間/施設）、緩和的放射線治療/チーム医療（ミニワークショップを含む）（8時間/施設）、等						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）の研修施設として認定されている。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	遠隔講義にて各大学の講義の履修と単位認定を行い、対面実習は各大学の特色ある領域を複数履修する。遠隔地からでも参加しやすいよう移動距離の少ない関東圏の大学間で凝縮した実習を実施し、地域の指導的立場の人材を育成する。						
指導体制	東京医科歯科大学、慶応大学、国際医療福祉大学、東海大学、東京歯科大学、順天堂大学の放射線治療部門が共同で、遠隔講義、対面実習、ミニワークショップを実施する。指導は放射線治療専門医、医学物理士、がん放射線療法看護師が直接行う。						
修了者の進路・キャリアパス	以下の資格を取得し、地域の中核病院やがん拠点病院で中心的役割を担う。 ・医師：放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会） ・看護師：がん放射線療法看護師・緩和ケア看護師（日本看護協会） ・医学物理士：医学物理士認定機構（JBMP） ・診療放射線技師：放射線治療専門放射線技師（RTT）						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	10	10	10	10	10	50
受入目標人数設定の考え方・根拠	各連携校の放射線治療領域に入職する医療人の過去の数を参照し、施設毎に年2-3名の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を年10名と設定し計50名を予定する。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0